

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2017~2018年度 No.229

2月 月報

那須クラブ会長 主題
地域につなげ那須ワイズ

強調月間：T O F



1月(新年)例会 1月 5日 於：和厨房「遊善」

2018~2019年度 主題

- 国際会長：(IP) Moon Sang Bong (韓国)
「私たちは変えられる」
- アジア地域会長：(AP) 田中 博之(東京多摩みなみ)
「ワイズ運動を尊重しよう」
- 東日本区理事：(RD) 宮内 友弥(東京武蔵野多摩)
「為せば、成る」
- 北東部長：涌澤 博(仙台青葉城)
「チャンス到来 われら北東部から世界へ」

クラブ役員 事務局

- 会長：河野 順子
- 副会長：村田 榮也
- 書記：藤生 強
- 会計：村田・鈴木
- 担当主事：藤生 強
- ブリテン：田村・村田

1月例会データ(出席率：100%)

在籍者 6名
例会出席者 6名名 メネット 2名

今月の聖句

わたしたちは信仰によって義とされたのだから、・・・今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。

ローマの信徒への手紙 5：1~2

2月 Happy Birthday

2/12 村田 榮メン

巻 頭 言

会長 河野 順子

那須ワイズメンズクラブ1月新年例会から

1月5日例会は、例年であれば今年の一年の抱負を語るはずであった。今年は「塩谷キャンプ場について、話し合われた。昨年末、藤生容子氏からの課題提案があった。昨年11月ごろ彼女は現場を訪ねて感じたことを紹介された。現在のキャンプ場の写真も紹介された。活性化することの手始めに足利Yから、何かの形でサイクリングをして、ゴールを塩谷キャンプ場にするという案であった。(足利Yは、以前当該、キャンプ場を利用していたという経緯がある。)

次に原田ワイズから設立当初からの経緯の説明があった。とちぎYMCAの5周年記念として設立されたこと。土地そのものは、数十万で手に入れたが、メンテナンスを行い使用できるまでには、一千万円くらい投入したこと。この額でのYMCAの資産はここだけではないかと。立地的に考えて、尚仁沢・鳥羽の湯・県民の森があり、蛍が飛び、湧水からのクレソンが生えている。この近くの畑を借りてサツマイモもできる。星空のきれいなことで名の知れた元の熊ノ木小学校もすぐ近くである。キャンプ場としては、人家が密集していても難しいし、距離的に里から離れすぎていても駄目。それらを勘案しても場所的に塩谷キャンプ場は最適である。

YMCAの核である青少年の健全育成には、自活トレーニングには良い場所であるはず。

いま、このままではせつかくの財産は朽ちるだけ。那須ワイズのエリアにあることから那須ワイズで何ができるか。さくらの花は入学式のころ咲いてしまい、多くの人が忙しいだろうから、それから数週間遅れて咲くしだれ桜など数十本植えたらどうだろう。ただ、那須ワイズだけの問題でなくとちぎYMCAとして考えていくものとする。

原田ワイズは、現在、多病を患い息切れがひどく、話も途切れるかと思いきや、この話では、桜の咲くキャンプ場が目につくのか、青年が夢を語っているかと思われる表情で語られた。感動である。

那須ワイズとしては、現場の雑草の整理に労力投入などは可能な限り協力は惜しまない。まずは、YMCA(組織)として塩谷キャンプ場の意義を明確に打ち出すことであり、今年が正念場である(と原田ワイズは言われる)。できるかできないかでなく、やるかやらないかだ。「なせば成る」は、東日本区の宮内理事の主題でもある。

ぜひ、とちぎYMCAとして方針をうち出して欲しいと那須ワイズのメンバーは考えている。

1月(新年)例会

書記 藤生 強

日時: 2019年1月5日午後1時30分~3時

場所: 和厨房「遊善」

参加者: メン: 河野順子、田村修也、原田時近、鈴木保江、藤生強、村田榮。メネット: 原田晴子、村田紀美子。

新年例会は、役員会に先立ち、和厨房「遊善」にて美味しい食事を頂きながら行いました。

食事の前に、那須ワイズと言うよりも那須YMCAを含めたとちぎYMCA全体の懸案事項である「YMCA塩谷キャンプ場」について話し合われました。

塩谷キャンプ場は那須ワイズや那須YMCAの活動エリア内にありますが、2011年の東日本大震災の原発事故によりキャンプ場が位置する地域は拡散した放射性物質の「ホットスポット」として影響を受けました。それ以降使用を控え、放射性物質の影響が少なくなった(とされる)現在も使用再開をすることなく、今に至っています。現在使用していない主な理由は、いまだ続く「放射性物質への懸念(風評?)」と篠や雑草によりフィールドが荒れたための「整備不良」の2つです。

初めに原田メンより、「塩谷キャンプ場は公益財団法人とちぎYMCAが所有する唯一の土地」であり、「とちぎYMCA設立5周年の記念事業として取得した」などの説明を受けました。

その後、藤生ワイズ担当主事より昨年11月末に行った現地調査の報告をしました。

話し合いは「具体的な整備内容」から「将来のキャンプ場像」など幅広く話し合われ、「まずは一步を踏み出そう」と今春除草を主とした「整備」にワイズとYMCAの合同で行おうということになりました。今年の「大きな方針」が示された後は、美味しい食事を堪能しました。

3月9日に東日本大震災の復興を願う「揚がれ!希望の凧」を2年ぶりに那須地区にて開催しますが、塩谷キャンプ場の課題も含め、震災復興はまだまだ道半ばと改めて感じました。

2月第2例会(役員会)報告

日時: 2月8日(金)午後6時30分~

場所: ココス西那須野乃木店

出席者：田村副会長、村田副会長、平山主事、田村メネット

協議事項

1. 2月例会（CS公開講演会）の件
2月15日（金）に例会を行う。内容は、昨年度に続いて超高齢化社会を元気生き抜く第2弾『「もしもの時」に備えて話し合しましょう』と題して河野順子会長（社）栃木県訪問看護ステーション協議会会長の講演（スライド）とグループに分かれての話し合いを行う。司会、田村副会長。プロジェクトの準備、平山主事。当日のプログラム作成、田村副会長。講演後のグループでの話し合いの時間にお茶菓子とお茶を出す。その準備は、田村メネットにお願いする。資料の印刷は平山主事をお願いする。
2. 次期会長研修会参加の件
日程の都合で欠席をする。
3. 3月（ユースリーダーによる報告会）例会の件
日程は、3月22日（金）を第1候補として、平山主事のところでユースリーダーの出席を考慮して行う。
4. 揚がれ！希望の凧2019
3月9日（土）午後1時30分より大田原のふれあいの丘芝生広場にて開催する。ワイズの活動として特別例会とする。
5. 2月ブリテン発行について
6. 3月役員会（第2例会）について、
3月1日（金）午後2時より西那須野教会にて開催する。
7. シイタケコンブの購入について
2月例会時に間に合うように80個購入する。

今後の予定

・3月役員会（第2例会）

日時：3月1日（金）午後2時～

場所：西那須野教会

内容：2月例会（公開講演会）の反省、3月例会（ユースリーダーの報告会）、4月（植樹）例会、3月号ブリテンの発行、YMCA報告等。

・揚がれ！希望の凧2019

日時：3月9日（土）午後1時30分～

場所：大田原氏ふれあいの丘芝生公園

・3月例会（ユースリーダーの報告会）

日時：3月22日（金）午後6時30分～（予定）

場所：西那須野教会

旧西那須野（那須西原）の緑と水（第70回）

田村修也

「シンペイの史談フォーラム」は知る人ぞ知る日本のアナーキストの領袖白井新平の連載であるが、その十四、戦争は犯罪である！血税反対と農民戦争の中で、彼は驚くべき発見をする。白井新平はその調査から、明治八年三月三日に突然、時の太政大臣三条実美は、大久保利通（参議）・山縣有朋・旧幕臣勝安房・大鳥圭介等を引き連れ、兵五十名に守られて（矢板）に到着、旧庄屋の坂巻家屋敷を挑発して、表に太政官の看板を掲げ、ここに三か月間滞在したことを知るのである。

このどの明治政史にも書かれていない空白の三か月間に何が起こったのであろうか。当時新後間もない新政府は、その前年、明治七年の二月には、維新初期に司法卿として司法権の確立に尽力した、元参議江藤新平が佐賀で挙兵、同年十月には攘夷主義を奉ずる足黒伴雄等の敬神党が熊本に蜂起して、県令を殺した神風連の乱などが続発して、彼等の足もと西国の政情は極めて不安であった。この神風連の乱に呼応して明治九年十月には、福岡県秋月の士族によって秋月の乱が起こされたし、同じとき長州でも前原一誠（元参議）等による萩の乱が起こる。

明治八年三月という、このような政情不安のさなかであった。にもかかわらず新政府の高官連が首都を去って、一挙して矢板に集まった緊急事態の原因は何であったのであろうか。お膝元の西国さえかくの如き不安定の状況にあったとするなら、明治元年から二年まで新政府軍と相戦った東北においては、更に不穏の空気に包まれていたであろう。東北には西国武士にもかして、新政府に怨みを持つ士や農民が多数散在していた。

旧幕奥羽連合軍は二本松、会津若松を中心として、天童・湯沢・新庄と東征軍を一手に引き受けて激戦を展開した。上野に據った彰義隊は既に慶応四年五月に破れ、寺沢新太郎・渋沢成一郎等に率いられた逃亡兵約二百余は、折りから東京沖にあった幕府の軍艦に逃れた。旧幕海軍総裁榎本武揚らは、開陽丸・長鯨丸等の軍艦で東京を脱出、北海道に向かう。

それより先、江戸開城に不満を持つ大鳥圭介らは、土方歳三に率いられる新選組残党と合して、二・三千名となり、江戸を脱して国府台に至る。評定の結果、大鳥を総督とし土方を参謀とする。彼等は宇都宮を奪還し、日光を拠点として再挙を期さんと北関東をめざす。小山・大平山・鹿沼を抜いた大鳥軍は、四月二十三日宇都宮城を奪還、藩主戸田一族は

館林に逃避。大鳥の脱軍によって関東地方一帯は戦禍に見舞われたが、この賊勢は次第次第に北伸して、独り北関東ばかりでなく、その影響は直接間接に東北地方や会津方面に及び、裏日本の古屋衝鋒隊の拳兵と相まって、東日本全体に騒乱を惹起した。

宇都宮を奪還したのち、日光に向かった大鳥軍は今市の戦いに敗れ、増大する官軍の追撃に抗することが出来ず、六月には会津に向かって総退却する。その後戦乱の中を大鳥は福島を経て九月十五日に仙台に着く。十月慶應は明治と改元。

会津では幕軍が勇戦奮闘したが衆寡敵せず、遂に十月降伏、降兵は東北に逸散、一部会津の降人は高田藩兵に警護されて、越後高田に至り謹慎所に幽閉された。

翌明治二年十一月、三十万石会津藩は本州の最北端の下北斗南藩三万石に転封となり、更に明治三年五月松平容大が藩知事となり、旧会津藩士は新封土に移住した。冬はあと半年後に来る。とにかく一日も早くこの未開の土地を開き、自給自足の道を講じなければならぬ。この厳しい現実の中には一筋の光明を見い出すことは不可能であった。官軍の勝利によって、それに反抗した仙台・盛岡・鶴岡・二本松・棚倉・上の山・一の関・福島・泉・天童・平をはじめ二十余藩は封土は没収されたり、減封となり、また二十数名は処刑された。大鳥らは仙台から榎本軍に合流したが、榎本軍も孤軍奮闘の末、明治二年五月遂に降伏した。(以下次号へ)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園
園長・理事長 福本 光男

「怒りの“やめろ”コール沸き上がる
ドイツの小学生、大人に抗議して街頭デモ敢行」

このニュースの見出しを見て何事が起きたのかと驚きました。デモ参加者は150人にもなったという記事は以下のように記されていました。

「『もう耐えられない』

エミールくんが『我慢の限界』に達したのは、家のクルマをガソリンスタンドで洗車していたときのことだったという。幼い妹は、初めて後部座席から洗車機の様子を見て興奮し、しきりに父親に話しかけていた。

『ねえパパ見て！ こっち見て！』

ところが小児科医である37歳の父親は、スマホ画面に見入ったまま顔をあげようとしません。その

様子に、エミールくんの堪忍袋の緒が切れた。

『パパ、スマホいじるのやめて』

大人のスマホ依存は、子供にとっても深刻な問題なのだ。

調査によれば、スマホの影響で、ドイツ人が他者と向き合う時間は確実に減少しているという。子供のスマホ所有率も高まっており、4～13歳の半数近くが自分専用のスマホを持っている。

ただし、子供のほうがネットの世界に耽溺することのマイナス面をよく理解しているようだ。アンケート調査で「自由な時間に何をしたいか？」と尋ねたところ、上位を占めたのは「友だちと過ごす」「外で遊ぶ」という回答だった(後略)

(「クーリエ・ジャポン」 2018.9.28)

皮肉にもスマホをみていなければ出会わなかったこの記事ですが、私もスマホは子どもだけではなく、特に子育て中の保護者の皆様にとっても大きな問題であると考えます。

那須塩原市内の幼稚園由来の私立幼保連携型認定こども園では、親の仕事の都合で乳児を土曜日に預かった場合は、平日に家庭でみてもらうようお願いをしている園が多いです。それは、人間関係能力も含めた様々な能力が育つ乳児期には、親子関係がとて大切であると言う根拠が沢山出ているからです。もちろん幼児期も親子関係が大切であるにはわかりません。日本の子どもの政策であるエンゼルプランから、1999年12月19日に、大蔵・文部・厚生・労働・建設・自治の6大臣合意した新エンゼルプランに変わった時に、「こどもの最善の利益」という文字が無くなり、子育て支援政策という名の経済政策に変換したのです。自治体にもよりますが、保育所や幼保連携型認定こども園の0歳児の保育に、1年間に税金が6数十万円かかる、品川区は900万円という数字を10年位前にみました。今はもっと額が高いと思います。本当の意味の子育て支援政策であれば、親の選択制にして、家で育児をしている親にも0歳児、1歳児と同額を選べる政策になるはずであります。そして、欧州のような幼保共通の4時間の教育無償化ではなく、ベビーシッターなどのなんの基準も無い、つまり保育の質も問わない長時間の保育の無償化が始まろうとしています。まさに経済政策と考えます。

以上のような日本の子育て政策の中で、社会は第4次産業革命(AI、IoT)を迎え、あらゆるものインターネットに繋がってきており、スマホはなくてはならないもの1つになってきています。

このような状況のなかで、私たち大人は冒頭の記

事のように、私たちは、子どもの言うこと、言わんとしていること、つまり、子どもの気持ちに意識的よりそうことが大切です。ドイツでは子どもだけのデモは禁止され親が同伴になります。記事には、拡声器で話すエミール君をお父さんが肩車をしている写真が掲載されていました。少なくとも子どもと一緒にの時間位は、House (家)ではなく、Home (家庭)であるために。

アジア学院だより

学校法人 アジア学院
校長 荒川 朋子

「違う風景 違う人」

ケニアに行ってきました。発展途上国といわれる国々の農村指導者を養成するアジア学院は創設から46年間で世界58カ国に約1,400人の卒業生がいます。世界の農村に散らばる卒業生の活動を現地を見て、アジア学院の研修がどのように活かされているのかを調査することは、研修の向上のためにも、アカウンタビリティを果たす上でも重要なことです。

ケニアには29人の卒業生がいますが、そのうちの14人に会うことができました。アフリカの地を踏むのは初めてで、見るもの聞くものすべてが新鮮でしたが、一番驚いたのはアジア学院の卒業生たちが学院にいた頃とは全く違う印象を見せていたことでした。もちろん卒業してからの月日のせいもありますが、堂々と自信にあふれ、アジア学院の提唱するサーバント・リーダーシップを懸命に実践していました。私はその姿に触れ、いかに自分が人のほんのわずかな部分しか知らずに、その人のことを知ったつもりでいたかに気づき愕然としました。例えば、今回私たちが訪問する2週間前に急逝した卒業生(2000年度卒、女性)について、いかに彼女が大きな役割を果たし、将来を期待され、幅広く人々に影響を与え、愛され慕われていたかを行く先々で耳にしました。彼女が卒業してから20年近くも経つのに、そんなことの一片すらも想像できずにいたことをとても恥ずかしく思いました。別の卒業生(2015年、男性)も静かで控えめな印象しかもっていませんでしたが、彼の活動する村を訪ねると、熱意を持って活発に活動をしていて、村の人たちと強い信頼関係で結ばれていることがよくわかりました。アジア学院の学生たちが自分のコミュニティーで何を必要とし、アジア学院や日本で見ると、触れるもの、学ぶものによってどう刺激され、それらがそ

の人の中にどう取り込まれ変換されていくのか、そしてそれらがやがてどのように現地の人々に伝わり、何に生まれ変わっていくのか、それはその人それぞれで、その土地の、その社会においてしか分からないこともきっと多いのだらうと思いました。自分の小さな認識の枠になど収まるものではないと強く感じました。乾燥した赤い土、トウモロコシとバナナの畑、たわわに実ったマンゴーの木、道路わきを歩く大勢の人、子ども、牛、羊、ヤギの群れ。派手な色のペンキで塗られた石造りトタン屋根の小さな店の列。この初めて見る風景の中に、卒業生たちの顔を思い浮かべてはめ込むと、自分の知っているのとはまるで違う人物像が見えるような気がしました。そして日本に思いを馳せてみました。外国にルーツを持つ人がこれからどんどん増えるであろうこの国にはそんな想像力が大事になるのだらうと思いました。日本の風景の中に見えるこれらの人々の姿は、日本人とは比べ物にならないくらい、ほんのわずかな部分しか理解されていないに違いありません。そんな限られた枠の中だけで彼ら、彼女らを判断してしまうのは大間違いであるかもしれないし、何よりももったいない気がします。想像力を最大限に膨らまして、別の風景に彼、彼女らを入れてみたら、日本にはもっと豊かな、寛容な心が生まれてくるかもしれない。そんなことを思いました。

YMCAだより

【とちぎYMCAウィンタープログラムが終了しました！】

12月下旬よりスタートしました、とちぎYMCAウィンタープログラム(キャンププログラム・日帰りプログラム・スキープログラム・ウェルネスプログラム)が予定通り実施され、無事に終了いたしました。沢山の子どもたちが参加し、有意義な時間を過ごし、貴重な時間を過ごし、貴重な体験を重ねることが出来ました。また、ユースリーダーも各プログラムに参加し、それぞれの役割の中で子どもたちと向き合い、共に過ごし成長することが出来たと思います。YMCAのプログラムにはCaring(やさしくする)、Honesty(しょうじきになる)、Respect(人を大切におもう)、Responsibility(できることは自分からする)というYMCAで大切にしている4つの想いが込められています。プログラムの様々な場面で、子どもたちがそれらを感じ考えてくれたらとても嬉しく思います。また、その経験が子どもたちを成長させ、日々の生活で活かされること

を願い、今後もプログラムを展開していきます。那須YMCAからは5名のリーダーがシーズンプログラムに参加しました。



【YMCAピンクシャツデー2月27日（水）】

ピンク色の服を着ていじめ反対をアピールする「ピンクシャツデー」を今年も全国のYMCAで行います。この運動は2007年カナダで、ピンク色のシャツを着た少年がゲイだといじめられたことに抗議し、皆でピンクシャツを着たことから始まりました。社会全体がいじめに対して「自分事として」向き合うこと、そして被害者と加害者以外の立場にいる人が「傍観者にならないこと」が、いじめられている人を救うことになると思います。公平で平和な世界の実現を目指していきます。2月28日はみなさんでピンクシャツを着ましょう！



【とちぎYMCA・那須YMCAの2月の予定】

- ・2/2（土） サタデークラブ@那須高原自然の家（雪遊び）
- ・2/3（日） エンジョイドッジボール大会
- ・2/9（土） サタデークラブ@千本松牧場（いちご狩り）
- ・2/16（土） サタデークラブ@矢板いちごの里（いちご狩り）

- ・2/17（日） Yキッズ@那須温泉ファミリースキー場（雪遊び）
- ・2/16～17（土・日） 野外クラブ雪遊びキャンプ
- ・2/23（土） サタデークラブ@那須高原自然の家（雪遊び）
- ・2/27（水） ピンクシャツデー

ユースリーダーのつぶやきコーナー

1. 名前（リーダー名） 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは？ 5. 思い出に残った活動とその理由は？ 6. 今後の進路は？ 7. YMCAに一言



- ①五十嵐啓祐(べこ)
- ②国際医療福祉大学 医療福祉・マネジメント学科
- ③福島県
- ④子供と関わるのが好きだったから

- ⑤エンジョイスキーキャンプです。
理由：初めてのキャンプ参加で色々なことを学べたからです。三日間子供たちを過ごし、いつもより密に関わる事が出来てとても思い出に残っています。
- ⑥社会福祉士になりたいと思っています
- ⑦子供達と一緒に何かを作ったり、どこかに行ったりと色々な経験が出来るのでとても楽しいです。

編集後記

- ・2月号の編集が遅れてしまい申し訳ありません。大切な原稿をいただいた方々にお詫びいたします。
- ・後期の会費の納入時期を迎えております。会計までお支払いください。
- ・年賀はがきの3等（年賀切手）を集めております。ご協力ください。当選番号は、02, 42, 78です。切手で提出ください。
- ・理事通信1月号に、メネット委員会からのお知らせとして、『第28回アジア太平洋地域大会に「平和と七夕」で歓迎を！』を掲載されています。その折鶴の作り方と送り先をお知らせいたします。ぜひご協力の程、宜しくお願いたします。次ページに掲載します。ご協力をお願いします。

2019 アジア太平洋地域大会(7.19~7.21)に

「平和七夕」で歓迎を！

2019年7月、仙台で開催されます「アジア太平洋地域大会」に、『仙台のメネットが長年にわたってお手伝いをしています平和七夕の吹き流しを飾って歓迎したい』と、仙台3クラブのメネットたちで考えております。そこでメネットの皆様、ご家族や知り合いの方々にもお声掛けいただき、折鶴を下記あてお送り下さいますようお願い申し上げます。

例年ですと夏休みになると同時に幼稚園の教室を借りて作業を開始いたしますが、大会は7月ですので、早めにとりかかりたいと思い、4月末までにお送り下さい。

もっと早くお送りいただくのは大歓迎です。

※下記完成図の赤色のように折った鶴をお送り下さい。

※毎年折っていただく方からは「折り続けるうちに、不思議と平和を願う気持ちが高まっていくのを感じます」という言葉を語っておられたことをなるほどと感じます。制作に携わっていただいた多くの方々の平和への願いは吹き流しやレイを通して、より多くの方々へ伝わっていくことと思います。(平和七夕代表:油屋重雄さん)

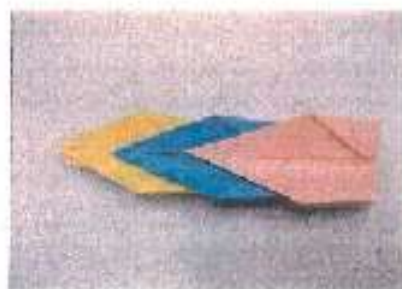
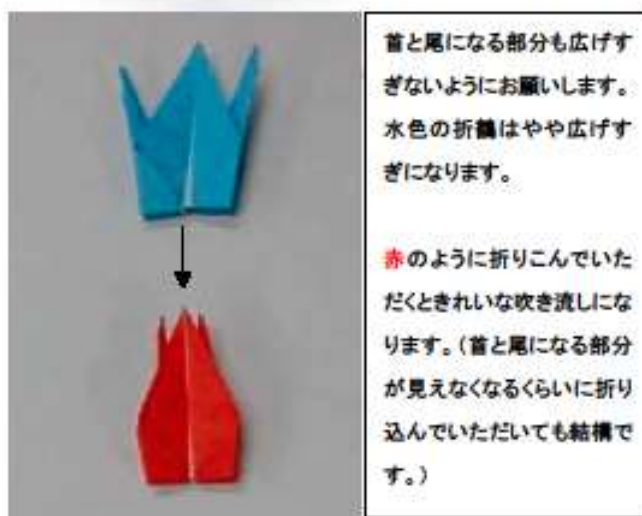
宛先: 〒980-0822 仙台市青葉区立町9-7 仙台 YMCA
「アジア太平洋地域大会」折鶴係 あて

<折り紙の大きさ>



100円ショップで販売しています

<完成図>



このようにして糸を通して吹き流しを作っていきます。



写真(平和七夕)の吹き流しを2本作る予定です。

公開講演会のご案内

超高齢化社会で元気に生き抜く!! 第2弾

「もしもの時」に備え 話し合いましょう

昨年2月公開講演会では、超高齢化社会を元気に生きる抜くためについてお話ししました。

「健康な長寿」は、高齢者にとって関心の高いことであることは、周知のとおりです。年齢による違いはありますが、概ね普通あるいは健康と思っている高齢者は増えてきています。高齢者の受療率も年齢によって異なるものの横ばいまたは若干低下傾向にあり、これからは高齢者の取り組み方によってさらに健康な高齢者が増えていく可能性もあると厚生労働省からの報告があります。

これまでは、いかに長く生きられるか、平均寿命を延ばすことを目標にしてきましたが、これからは、生活の質を重視し、長くなった寿命を「健康で自立して暮らすことができること」に目が向けられています。

高齢者の健康づくりは、昨年も皆様に案内しましたように、栄養・運動・社会参加が有益であります。運動・社会参加については、まだまだ皆さんにお伝えすることはありますが、今回は、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）について紹介したいと思います。

「健康で自立した生活を過ごす」ことを阻む障害が生じた時、認知機能障害や自己判断ができない状態に陥ることは回避できないことがあります。そのような状態で高齢者自身が本位でない方向に進まないために、今、自分の想いを家族や医療者、親しい人に伝えておくこと、そして記録しておく、これがアドバンス・ケア・プランニングといえます。（厚生労働省では、愛称として『人生会議』としています。

終い仕度や終活などと今までも言葉はありましたが、お互いに話し合ったうえで、納得のいく最終段階を迎えたいという意図があります。みんなで語り合いましょう。

○日 時：2月15日(金) 午後6時30分～午後8時頃

○会 場：西那須野教会1階ホール（那須塩原市太夫塚1-232-438）

○講 師：河野順子（那須ワイズメンズクラブ 会長）

〈社〉栃木県訪問看護ステーション協議会 会長

○入場料：無料（夕食の準備はございません）

○主 催：那須ワイズメンズクラブ・那須YMCA

○お問い合わせ：那須ワイズメンズクラブ 副会長 田村修也（090-5545-6763）

震災を語り継ぎ、被災地を思い、共に考える

揚がれ！希望の凧 2019

那須会場



2019年3月9日(土) 13:00~15:00

*地震発生時刻の14:46に黙とうをします

活動場所：大田原市ふれあいの丘 芝生広場（大田原市福原 1411-22）

参加費：無料

持ち物：凧

申込み：当日会場にて受付をしてください。

事前の申込みはありません。

*雨天中止です（少雨の時は様子を見ながら行います）

問合せ：028-624-2546（平日 9:00~19:00）

東日本大震災から八年を迎えます。『震災復興』と『平和実現』を願って、全国各地で「希望の凧」が揚げられます。凧揚げにはどんな意味があるの？・・・、私たちが包み込む大空は被災地にそして世界に繋がっています。大空高く「希望の凧」を揚げて、私たちの願いを伝えましょう！子どもから大人まで、どなたでも参加できます。2019年も全国各地で、栃木県内でも那須会場の他に、宇都宮会場、足利会場にて「希望の凧」が開催されます。

【共催】 那須YMCA、那須ワイズメンズクラブ



那須 YMCA

公益財団法人 とちぎ YMCA

〒320-0041 栃木県宇都宮市松原 2-7-42 Tel 028-624-2546 Fax 028-624-2489

